

学長定例記者会見要項

日 時： 令和元年12月5日（木） 11：00～11：45
場 所： 法人本部第二会議室（小白川キャンパス法人本部棟4階）

発表事項

1. リチウムイオン電池で安全性を高める次世代セパレータの開発に成功
～山形大学森下准教授、日本バイリーン(株)、(株)大阪ソーダとの共同開発～
2. 日本科学未来館「研究エリア」入居プロジェクトに採択
～プリント技術×デジタル・AI技術で次世代のものづくり研究を推進～
3. 「外食インカレ2019」で本学学生が金賞を受賞
～人文社会科学部3年生チームが外食企業に「夜の給食」を提案～
4. 農学部附属農場産のお米を学生デザインのラベルで販売
～山形大学生生活協同組合で12月5日より取り扱い開始～
5. 第9回やまがた教員養成シンポジウムの開催について
～教員養成から教師教育へ（教師の学びの場と教職大学院の役割）～

お知らせ

1. データサイエンスカフェの開催について

(参 考)

- 次回の学長定例記者会見（予定）

日 時： 令和元年12月19日（木） 11：00～11：45
場 所： 法人本部第二会議室（小白川キャンパス法人本部棟4階）

学長定例記者会見（12月5日）発表者

1. リチウムイオン電池で安全性を高める次世代セパレータの開発に成功

～山形大学森下連携准教授、日本バイリン(株)、(株)大阪ソーダとの共同開発～

学術研究院 産学連携准教授（有機エレクトロニクスイノベーションセンター担当）
日本バイリン株式会社 理事 技術開発本部長
株式会社大阪ソーダ R&D本部長

もりした まさのり
森下 正典
たなか まさなお
田中 政尚
いそがい しんじ
磯谷 真治

2. 日本科学未来館「研究エリア」入居プロジェクトに採択

～プリント技術×デジタル・AI技術で次世代のものづくり研究を推進～

学術研究院 教授（機械・高分子・ソフトマター）

ふるかわ ひでみつ
古川 英光

3. 「外食インカレ2019」で本学学生が金賞を受賞

～人文社会科学部3年生チームが外食企業に「夜の給食」を提案～

人文社会科学部 3年

//

かとう あかり
加藤 陽理
いとう れいな
伊藤 怜奈

4. 農学部附属農場産のお米を学生デザインのラベルで販売

～山形大学生生活協同組合で12月5日より取り扱い開始～

農学部附属農場（高坂農場）技術職員

山形大学生生活協同組合 専務理事

地域教育文化学部地域教育文化学科文化創生コース3年

たなか けんいち
田中 健一
ふじまき まさゆき
藤巻 正之
さとう いあん
佐藤 唯杏

5. 第9回やまがた教員養成シンポジウムの開催について

～教員養成から教師教育へ（教師の学びの場と教職大学院の役割）～

学術研究院 教授（大学院教育実践研究科担当）

いまむら てつりのり
今村 哲史

2019年12月5日

リチウムイオン電池で安全性を高める次世代セパレータの開発に成功 ～山形大学森下准教授、日本バイリン(株)、(株)大阪ソーダとの共同開発～

【本件のポイント】

- 山形大学森下正典産学連携准教授、日本バイリン株式会社と株式会社大阪ソーダとは、リチウムイオン電池の安全性を高める次世代セパレータの開発に成功した。
- 本技術のセパレータは、日本バイリン株式会社が開発した耐熱性不織布と株式会社大阪ソーダが開発した特殊ゴムを組み合わせたもので、電池の試作・評価は山形大学が担当した。
- 2年以内にドローンなどの電池用セパレータとして製品化を目指す。



【概要】

山形大学森下正典産学連携准教授、日本バイリン株式会社（代表取締役社長執行役員、CEO：川村智、東京都中央区）と株式会社大阪ソーダ（代表取締役社長執行役員：寺田健志、大阪府大阪市）とは、リチウムイオン電池の安全性を高める次世代セパレータの開発に成功した。本技術は日本バイリン株式会社が開発した耐熱性不織布と株式会社大阪ソーダが開発した特殊ゴムを組み合わせたもので、従来のものより耐熱性に優れていることが特徴である（従来のものは80℃くらいから収縮するが、本技術は150℃でも収縮しない）。本技術を使用すると、電池周辺の温度が上昇しても電池はショートせず、発火には至らないため、安全性を高めることができる。

【背景】

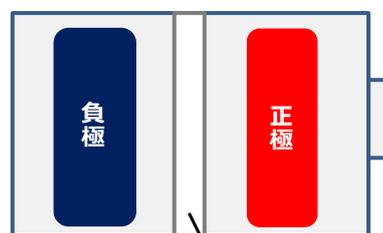
電池にはセパレータという部材が使用されている。それは正極（プラス極）、負極（マイナス極）との間に置き、両極を隔離する役割がある。従来のリチウムイオン電池にはポリオレフィン製（スーパーのビニール袋と同じ素材）のセパレータが使用されており、電池周辺の温度が上昇するとセパレータが収縮するため電池がショートし（正極と負極が接触する現象）、発火することがあった。そのため耐熱性のあるセパレータが求められていた。

【本技術のリチウムイオン電池用セパレータ】

【従来のリチウムイオン電池用セパレータ】



耐熱性不織布＋特殊ゴム



ポリオレフィン製セパレータ

	本技術のセパレータ	従来のセパレータ
セパレータの母材	耐熱性不織布	ポリオレフィン(スーパーのビニール袋と同素材)
組み合わせる材料	特殊ゴム	
セパレータの特徴	耐熱性繊維を使用した不織布のため、従来セパレータより耐熱性が高くなった(150℃でも変形なし)。また耐熱性不織布に特殊ゴムを埋め込むことでショートしやすいという不織布の課題をクリアした。	無数の細孔をもつフィルムで、保液性、化学的安定性など諸特性は優れているが、80℃くらいから変形する。

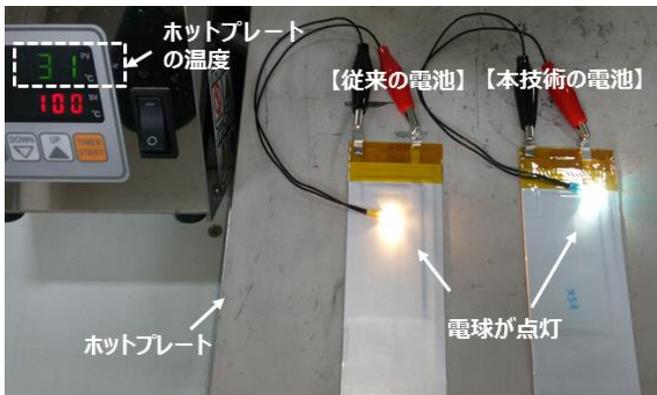
【共同開発の成果】

山形大学森下正典産学連携准教授、日本バイリーン株式会社と株式会社大阪ソーダとは、耐熱性不織布と特殊ゴムを組み合わせて、電池の安全性を高める次世代セパレータの開発に成功した。開発にあたっては、耐熱性繊維を絡み合わせた不織布を使用することで、短時間で充電できることや耐熱性が向上するなど従来のセパレータより優れた性能が得られたが、多孔性(内部に多くの隙間がある)であるため、電池がショートすることがあった。そのため電池性能に悪影響を与えない特殊ゴムを不織布の隙間に埋め込むことで、耐熱性を維持しながら電池がショートしやすいという不織布の課題をクリアした。

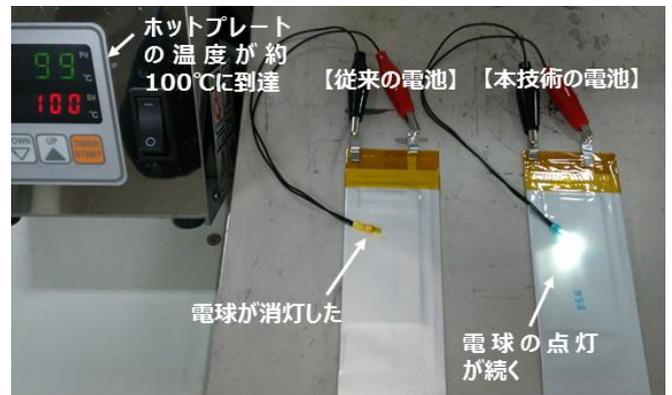
加熱試験では、従来の電池をホットプレートで加熱すると 100°Cで電池がショートし電球は消灯したが、本技術の電池は 150°Cでも電球は点灯し続けた。周辺の温度が上昇した場合でも、電池は発火することなく、安全性を高めることに成功した(下記の試験では電池がショートしても発火しない小型電池を使用し、安全性の良し悪しは電球の点灯・消灯で判断した → ショートすると電球が消灯する仕組み。ショートしなければ電球は点灯し続ける)。

【電池の加熱試験】

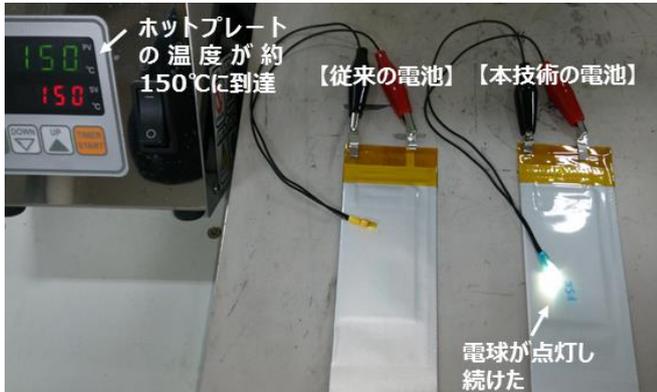
(1)30°Cからスタート



(2)ホットプレートが100°Cになる



(3)150°Cに到達



【今後の展望】

本技術は電池内部の温度が上昇しやすいドローン(大電流で使用する媒体)などの電池には有効で、2年以内の製品化を目指し、本技術を使用したドローン用電池の試作を進めている。

お問い合わせ

- ・山形大学 学術研究院 産学連携准教授 (有機エレクトロニクスイノベーションセンター担当) 森下 正典
Tel 0238-26-3372、 e-mail morishita@yz.yamagata-u.ac.jp
- ・日本バイリーン株式会社 電気・工業資材本部 第一営業部
Tel 03-4546-1150
- ・株式会社大阪ソーダ R&D 本部 イノベーションセンター
Tel 06-6409-1389

令和元年（2019年）12月5日

日本科学未来館「研究エリア」入居プロジェクトに採択 ～プリント技術×デジタル・AI技術で次世代のものづくり研究を推進～

【本件のポイント】

- 本学申請プロジェクトが、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）日本科学未来館「研究エリア」入居プロジェクトに採択。
- 本学が得意とするプリント技術と、デジタル技術や人工知能技術を融合させることにより、「次世代やわらかものづくり革命」を目指す研究を実施。
- 科学コミュニケーション活動により、来館者が最先端の科学技術を体感。研究開発への市民参画により、市民レベルでの科学研究活動が起きることが期待される。



【概要】

本学が申請したプロジェクトが、国立研究開発法人科学技術振興機構 日本科学未来館「研究エリア」入居プロジェクトに採択されました（8室募集。使用期間中の施設使用料は無償。）。地方国立大学が未来館へ入居するのは大変珍しいケースです。

本学ではこれまで、有機ELや有機物半導体、太陽電池、フレキシブルハイブリッドエレクトロニクスなどに関する世界的な研究拠点を形成してきました。日本科学未来館「研究エリア」では、これらの取組みを拡大し、山形大学の得意とするプリント技術に、新たに3Dプリンターの技術を加え、さらにデジタル技術や人工知能技術との融合を狙う、「次世代やわらかものづくり」の開拓を推進します。

【山形大学研究プロジェクト概要】

研究プロジェクト名：「プリンターの技術革新 - インクジェットから3D印刷に及ぶ知的やわらかものづくり革命」

研究代表者：山形大学O I 機構連携型O P E R A 領域統括・教授 古川英光

管理責任者：山形大学オープンイノベーション推進本部統括クリエイティブマネージャー・産学連携教授 酒井真理

使用施設：日本科学未来館 4階 408・409号室（114㎡）

使用期間：2020年4月1日～2023年3月31日（3年間）

活動概要：

（1）研究活動

「次世代やわらかものづくり」を目指して、以下のような活動を行う。

- ① プリンターの技術革新における知的やわらかものづくり革命の研究
- ② 3Dゲルプリンターの開発
- ③ 3Dフードプリンターの開発
- ④ ハイブリッドものづくりシステムの開発、共同研究を希望する企業、機関への研究紹介

（2）科学コミュニケーション活動

「デジタルモノづくりの概念、技術の伝道」を目的として、日本科学未来館との協議により以下のような活動を計画、実施する。

- ① 実際に3Dデータを製作、3Dプリンターによる製作の体験
- ② インクジェットプリンターの原理紹介、製品紹介
- ③ ソフトロボティクス（ゲルハチ公、ゲル製クラゲなど）紹介
- ④ 食品3Dプリンターを用いたソフト食の印刷デモを行う。



3Dプリンター
展示イメージ



ゲル製
クラゲ



ゲルハチ公

【今後の展望】

これまで加工が難しかった、ゲルや食品といったやわらかい素材を個人の嗜好、体形などによって望みの3次元形状に造形したり、3Dプリント技術に電子回路、電子部品を組み込んだものづくりができたりするという次世代のものづくりに関する研究の進展が期待される。

また、科学コミュニケーション活動を通じて、子供たちに最先端の科学技術を体感してもらう。最先端の科学技術を来場者に紹介し、ともに語り合い、考えることにより、来場者が次世代のものづくりに関心を持ち、新しいものづくりの方法を自ら修得し、市民レベルでの科学研究活動が起きることが期待される。

（参考）日本科学未来館「研究エリア」に現在入居中のプロジェクト

研究プロジェクト名	研究機関・研究代表者
「光電変換」プロジェクト	名古屋大学 未来社会創造機構 松尾 豊
「自律移動ロボットの生活空間センシング」プロジェクト	産業技術総合研究所 人間拡張研究センター 持丸 正明
「ヒューマノイド」プロジェクト	東京大学情報理工学系研究科 稲葉 雅幸
「Cyber Living Lab 身体性メディア」プロジェクト	東京大学／高齢社会総合研究機構 舘 暉 慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科 南澤 孝太
「多感覚コミュニケーション」プロジェクト	東京女子大学 現代教養学部 心理学専攻 田中 章浩
「ミトコンドリア生合成」プロジェクト	京都産業大学生命科学部 遠藤 斗志也
「SFC Lab サイエンスコミュニケーター」プロジェクト	慶應義塾大学環境情報学部 村井 純
「二次元物質」プロジェクト	東京大学大学院理学系研究科化学専攻 西原 寛
「潜在情報」プロジェクト	早稲田大学 理工学術院基幹理工学部 渡邊 克巳
「自在化身体」プロジェクト	東京大学 先端科学技術研究センター 稲見 昌彦

（日本科学未来館HP） <https://www.miraikan.jst.go.jp/aboutus/facilities/project-list.html>

お問い合わせ 山形大学オープンイノベーション推進本部 内藤 TEL 0238-29-0566 メール yu-oi@yz.yamagata-u.ac.jp

令和元年（2019年）12月5日

「外食インカレ2019」で本学学生が金賞を受賞 ～人文社会科学部3年生チームが外食産業に「夜の給食」を提案～

【本件のポイント】

- 大学生・大学院生が提案するビジネスアイデアコンテスト「外食インカレ2019」（主催：一般社団法人日本フードサービス協会、日本フードサービス学会）で人文社会科学部3年生の加藤陽理・伊藤怜奈・熊谷穰チームが金賞を受賞。
- 全128チームの中から2度の書類審査を通過した6チームによる最終プレゼンが11月30日に行われた。
- 外食産業が学童保育を導入して夜の給食を提供することで、子供の孤食を減らしつつ、企業側の収入確保や外食産業のイメージ向上を図るビジネスモデルを提案。



【概要】

大学生・大学院生が提案するビジネスアイデアコンテスト「外食インカレ2019」で人文社会科学部3年生の加藤陽理(かとうあかり)・伊藤怜奈(いとうれいな)・熊谷穰(くまがいゆたか)チームが金賞(優勝)を受賞しました。このコンテストは、一般社団法人日本フードサービス協会、日本フードサービス学会が主催したもので、今回で2回目。今年、2020年東京オリンピック・パラリンピック以降を見据え、1. 外食産業の生産性の向上策、2. グローバルの視点から外食産業のマネジメントのあり方、の2つが課題テーマとして設定されました。応募のあった128チームの中から、2度の書類審査を通過した6チームにより、11月30日に東京の日本青年館で最終審査が行われ、「夜の給食～外食産業が子供の『こ食』を解決～」をテーマにプレゼンテーションを行い、外食産業における学童保育の導入に関わるビジネスモデルを提案した、本学人文社会科学部3年生チームがプレゼンバトルを勝ち抜き、金賞を手に入れました。

【提案内容】「夜の給食 外食産業が子供の『こ食』を解決」

本提案は、外食産業が学童保育を行い、夜の給食を提供するというものであり、社会的課題となっている「孤食（特に子供の孤食）」に着目した。特に小学生の学校以外の生活時間では学童保育に費やす時間が多い。そのため、学童保育で給食を提供することは、子供の孤食改善につながりやすい。しかしながら、従来の学童保育は『預かる時間が短い』『食事を提供できない』、子ども食堂は『開催頻度が少ない』『ボランティアのため継続性に不安』などの課題を持っている。そのため、外食企業が学童保育を兼ねるならば、これらの課題は解決される上、栄養バランスのとれた食事提供や食育に関わる教育も行うことが出来る。外食産業が学童保育市場を創造することで、中・長期的には外食産業の生産性の向上とともに、社会的課題に取り組むことによるイメージ向上を期待することが出来る。

【外食インカレ2019について】

名称：第2回大学生・大学院生が提案する第2回ビジネスアイデアコンテスト『外食インカレ2019』
主催：一般社団法人日本フードサービス協会、日本フードサービス学会
<https://gaisyoku-ic.com/>

お問い合わせ
山形大学広報室
TEL 023-628-4008 メール koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

2019年12月5日

農学部附属農場産のお米を学生デザインのラベルで販売 ～山形大学生生活協同組合で12月5日より取り扱い開始～

【本件のポイント】

- 農学部附属やまがたフィールド科学センターエコ農業部門（高坂農場）で収穫された米を学生デザインのラベルで販売開始。
- 地域教育文化学部地域教育文化学科文化創生コース3年の佐藤 唯杏（さとう いあん）さんがデザインを担当し、山形大学生生活協同組合で初めて販売。
- 売上の一部は「山形大学基金」に寄附され、学生支援に活用。



【概要】

山形大学農学部附属農場（高坂農場）産の4種類のお米（はえぬき、ササニシキ、ひとめぼれ、ミルクークイーン）を山形大学生生活協同組合で初めて販売します（従来は高坂農場でのみ販売）。このお米は専用の大型保冷庫で保管しているため新米時期はもちろんのこと、年間を通して収穫時の品質に近い状態で販売できます。

販売にあたり、地域教育文化学部文化創生コース3年の佐藤 唯杏さん（さとう いあん、鶴岡市出身）がラベルをデザインし、“オール山形大学”の商品となりました。お米は1パック2合（300g）入りで、個別でも4種類入りの箱詰めでもお求めいただけます。

山形大学生生活協同組合の売り上げの一部は「山形大学基金」を通して本学の学生支援として活用されます。

【山形大学生生活協同組合での販売】

2合(300g) 入り 1 パック（はえぬき、ササニシキ、ひとめぼれ、ミルクークイーンの4種）各 330 円（税込）

4 パック入り箱詰め 1 箱 1,400 円（税込）

小白川・飯田・米沢・鶴岡の各キャンパス内にある山形大学生生活協同組合の店舗のほか、同組合のホームページからも通信販売にて購入することができます。 (<https://www.yamagata.u-coop.or.jp/>)

【ラベルをデザインした佐藤唯杏さんのコメント】

「稲のしなやかさや柔らかく美しい様子を丸や曲線といった抽象的な表現を用いてラベルに込めました。4つのラベルにある穂の色はそれぞれ違いますが、それぞれに他の穂の色が少し加えられており、並べるとグラデーションのように変化することで統一感や視覚的な面白さを取り入れました。」

【山形大学生生活協同組合での売り上げの一部は学生の支援に】

今年度は、2,000 パックの販売が予定されており、売上の一部は「山形大学基金」に寄附され、学生支援として活用されます。

※ なお、従来どおり、山形大学農学部附属農場での販売も行います。（学生デザインのラベルはつきません）はえぬき、ひとめぼれ及びミルクークイーンは精白米5kg、玄米10kgで販売します。令和元年度産ササニシキは完売しました。

お問い合わせ

山形大学鶴岡キャンパス事務部総務課附属施設担当

TEL 0235-24-2278

山形大学生生活協同組合 小白川コンビニ店 Ciel

TEL 023-641-8662

令和元年（2019年）12月5日

第9回やまがた教員養成シンポジウムを開催

～教員養成から教師教育へ（教師の学びの場と教職大学院の役割）～

【本件のポイント】

- 山形大学大学院教育実践研究科、地域教育文化学部、公益財団法人やまがた教育振興財団主催のシンポジウム。
- 山形大学大学院教育実践研究科創立10周年を迎え、教職大学院が中心となりシンポジウムを企画。
- 教職大学院修了生の学校現場での生の声を踏まえ、「教員養成から教師教育へ」という大きな動きの中で教師の成長に資する学びの場をどうつくるのか、教職大学院はどのような役割を果たすべきなのかについて話し合う。



【教職大学院生による授業の様子】

【概要】

令和元年12月21日（土）午後、「第9回やまがた教員養成シンポジウム」を開催します。テーマは『教員養成から教師教育へ－教師の学びの場と教職大学院の役割－』です。今回は、この度創立10周年を迎える山形大学大学院教育実践研究科（教職大学院）が中心となって企画しました。第1部は、学校教育の課題として注目されている「学校防災」や「学校改革ネットワークの現状」についての講演です。第2部は、教職大学院修了生の「現在の取り組みと教職大学院で学んで今生きていること、さらに学びたいこと」の発表と全体協議です。「教員養成から教師教育へ」という大きな動きの中で、教師の成長に資する学びの場をどうつくるのか。そして教職大学院はどのような役割を果たすべきなのかについて、学校現場の声を交えながら考えていきます。なお、当日の入場は無料です。また、事前の申込みも不要です。

【第9回やまがた教員養成シンポジウム】

- テーマ：教員養成から教師教育へ－教師の学びの場と教職大学院の役割－
- 主催：山形大学大学院教育実践研究科、地域教育文化学部、公益財団法人やまがた教育振興財団
- 共催：東北文教大学
- 日時：令和元年12月21日（土） 13:00～16:40
- 会場：遊学館ホール
- 入場料：無料・事前申込不要
- スケジュール
 - 12:30～13:00 受付
 - 13:00～13:20 開会（趣旨説明）
 - 13:20～14:00 講演1「学校防災－教員養成から現場へ－」：村山良之（大学院教育実践研究科担当 教授）
 - 14:00～14:40 講演2「学校改革ネットワークの現在」：森田智幸（大学院教育実践研究科担当 准教授）
 - 14:55～15:55 大学院修了生による報告
「現在の取り組みと教職大学院で学んで今生きていること、さらに学びたいこと」：
牛草 学（仙台市立田子小学校 教諭）、村山 豪（山形市立金井小学校 教諭）
村山美沙姫（寒河江市立南部小学校 教諭）
 - 15:55～16:35 協議「教師の学びの場と教職大学院の意味と役割」司会：出口 毅（大学院教育実践研究科長）
 - 16:35～16:40 閉会

お問い合わせ

山形大学小白川キャンパス事務部 総務課総務担当
TEL 023-628-4304

山形大学大学院教育実践研究科
創立10周年記念シンポジウム

第9回やまがた教員養成シンポジウム

教員養成から教師教育へ —教師の学びの場と教職大学院の役割—

日時 2019年12月21日(土) 13:00~16:40

会場 遊学館ホール

主催: 山形大学大学院教育実践研究科, 地域教育文化学部, 公益財団法人やまがた教育振興財団

共催: 東北文教大学

後援: 山形県教育委員会(予定), 山形市教育委員会(予定)

◆日程

- 12:30~13:00 受付
- 13:00~13:20 開会 趣旨説明: 江間史明(教育実践研究科 教授)
- 13:20~14:00 講演1: 「学校防災—教員養成から現場へ—」
村山 良之(教育実践研究科 教授)
- 14:00~14:40 講演2: 「学校改革ネットワークの現在」
森田 智幸(教育実践研究科 准教授)
- 14:40~14:55 休憩
- 14:55~15:55 大学院修了生による報告: 「現在の取組みと教職大学院で
学んで今生きていること, さらに学びたいこと」
牛草 学(仙台市立田子小学校教諭)
村山 豪(山形市立金井小学校教諭)
村山 美沙姫(寒河江市立南部小学校教諭)
- 15:55~16:35 協議: 「教師の学びの場と教職大学院の意味と役割」
教育実践研究科 教員及び修了生
司会 出口 毅(教育実践研究科長, 副学長)
- 16:35~16:40 閉会

入場無料

事前申込不要

お問い合わせ

山形大学小白川キャンパス
事務部総務課総務担当

☎ 023-628-4304

令和元年(2019年)12月5日
山形大学

* 詳細は別添の資料をご覧ください。

1. データサイエンスカフェの開催について

「社会人はどうやってデータサイエンスを学ぶか」をテーマに勉強会を開催します。

日時・内容：令和元年12月5日（木） 17：30～18：30

「データサイエンス・AIの産業応用事例と企業におけるデータ活用組織設計の実例」

講師：NEC AI・データアナリティクス事業開発本部 本橋洋介氏

令和元年12月19日（木） 17：30～18：30

「山形県におけるデータ活用人材の育成」

講師：山形県企画振興部情報政策課課長補佐 永井 彰氏

会場：データサイエンス多目的ホール511（小白川キャンパス理学部2号館5F）

※これまでの定例会見でお知らせしたもので、開催が迫っているイベント

◎ 第16回学長特別講演会を米沢キャンパスで開催

テーマ：全産業デジタル化時代のイノベーションと人材育成～我が半生を振り返って

講師：株式会社ブロードバンドタワー代表取締役会長兼社長 CEO 藤原洋氏

（インターネット協会理事長、慶應義塾大学環境情報学部特別招聘教授、SBI 大学院大学副学長）

日時：12月12日(木)16:30～18:00

場所：山形大学米沢キャンパス 4号館中示範A教室

◎ COC + シンポジウム「高等教育機関による若者定着の“これまで”と“これから”」

日時：12月19日(木)13:30～16:10

会場：山形国際ホテル 3F 富士の間

参加費：無料（定員100名、申込み必要；締切は12月2日(月)まで）

◎ 第2回高分子と有機材料に関する国際会議(2nd IPOMY)を開催

国内外から第一線で活躍する研究者を招聘し、マイクロプラスチック問題や有機EL研究など、我々の生活にも身近な、高分子と有機材料の研究に関する国際会議を開催します。

期間：12月17日(火)～12月20日(金)

会場：山形大学米沢キャンパス

DATA SCIENCE CAFE

データサイエンスカフェ

カフェにいるような気分で気軽に学ぶ、データサイエンス

本企画は、毎回異なる講師をお招きし、数理データサイエンス・AI人工知能に関する身近なテーマから専門的な分野まで幅広い内容で発表いただくトピック型の勉強会です。
データサイエンスに興味はあるけど何から始めていいかわからないという方もお気軽にご参加ください。



会場

データサイエンス多目的ホール 511
山形大学小白川キャンパス 理学部2号館 5階

参加

無料
申込不要

今月のテーマ

社会人はどうやってデータサイエンスを学ぶか

12/5 THU

時間 17:30 >> 18:30

NEC AI・アナリティクス事業開発本部
シニアデータアナリスト

本橋 洋介 氏

データサイエンス・AIの産業応用事例と 企業におけるデータ活用組織設計の実例

近年、データ分析の応用が広がっており、様々な業種で機械学習などデータを活用した事例が増えています。

本講演では、金融・流通・製造・交通などに対してどのような実応用事例があるかを紹介します。併せて、近年の興味深い研究事例を紹介します。また、企業においてデータ活用を行うための組織設計・アセット整備をどのように行うかについての考えや、機械学習の実応用上の課題を紹介します。これに限らず、企業におけるデータサイエンティストの働き方など、その場でご質問にお答えする形を想定しています。気軽にお越しください。

12/19 THU

時間 17:30 >> 18:30

山形県企画振興部
情報政策課 課長補佐

永井 彰 氏

山形県におけるデータ活用人材の育成

近年、山形県の企業においても、データ活用できる人材が求められています。

今回は、IoTやビッグデータ、AIなどの先端ICT分野の
人材育成について、山形県のこれまでの取組みをご紹介します。学生さんはもちろん、ICT分野に興味をお持ちの社会人の方も気軽にお越しください。



途中参加・途中退室自由&飲み物持ち込み可

セルフカフェコーナーもお気軽にご利用ください！ 1杯50円～



会場に来られない方は、統合メッセージングサービスGoogle Meetを使ってパソコンやスマートフォン経由で参加することが可能です。
詳しくは右のQRコードからHPをご覧ください。

山形大学データサイエンス教育研究推進センター

derp-info@jm.kj.yamagata-u.ac.jp 代表/脇 克志 (理学部)



こんな方は是非ご参加ください

- データサイエンスに興味がある、学んでみたいが、何から始めたらいいかわからない
- 数理データサイエンス・AI人工知能に関する理解を深めたい
- 学外の講師の発表を聞いてみたい
- 学部外の人と交流したい